

令和5年度第2回朝来市地域包括ケアシステム推進会議録

日時：令和5年9月6日（水）13:30～15:40

場所：本庁舎 401・402・403 会議室

司会：足立 記録：藤原

参集者：中山会長、須磨副会長、前田委員、足立委員、谷口委員、小森委員、濱田委員、柿沼委員、田中委員

欠席者：小島委員、前田委員

事務局：笠垣部長、大石課長、馬袋課長、足立副課長、藤原課長補佐、小畑主任、田路主事、北野専門員、北川主任介護支援専門員

1 開 会

2 あいさつ 中山委員長から

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。広く意見をいただくため、ワールドカフェ方式で行いますので、よろしく願いいたします。

3 議 事

(1) 会議体の特性と令和5年度の活動予定 資料1

- ・ 資料1 意見を出してもらうことが、懇談会の趣旨となっている。
- ・ 次回の会議体の開催は12月を予定している。

(馬庭委員) 今年度の目標ですが、会議の中で協議される部分は、地域包括システムの推進部分となっている意味を教えてください。様々な会議体をまとめて、介護保険の事業計画に提言することが役割だと思われるが、その意味を教えてください。

(事務局) 介護保険事業計画策定委員会の中では、サービスの基盤整備や保険料の確定等多くの内容があり、すべての内容を議論することは無理があるため、分担して協議している。

(馬庭委員) それぞれ独立した会議と認識している。審議会と地域包括ケアシステム推進会議とが役割分担していることが分からない。総合事業の施策がこの中に入っているのか。具体的にはほとんど入っていないと思われる。推進会議の立ち位置（役割）を明確に教えてください。

(事務局) ワールドカフェの後に、説明する時間を設けているのでその中で説明する。介護予防について話合う場がないことは課題と認識している。

(馬庭委員) 推進会議の今年度する役割の中に、ふくし相談支援課の部分のみ抽出して検討することに違和感がある。介護予防は、もっと広義な内容になるため、役割の区別等整理する必要があると思う。

(2) 第9期介護保険事業計画（地域包括ケアシステム推進部分）策定について 資料2

- ・ 相互の意見交換がしっかり行えるよう、ワールドカフェ方式にて意見を伺う。
別紙「ワールドカフェ」の説明を参照。

【困りごとに対応する総合相談支援体制づくり】（1班）

- ・ 3つの分類、相談する場所、相談窓口の連携、相談のデータ
- ・ どこに相談に行ったらよいか分からないため、相談しにくい。高年福祉課、社会福祉課、ふくし相談支援課同士の連携づくり
- ・ 高齢者分野、障害分野の会議を増やさずに一体的にすることはできないか。
- ・ 高齢者相談支援センターと相談支援専門員との連携づくり
- ・ 介護支援専門員が相談支援専門員の資格取得
- ・ 介護認定が下がってデイサービスに行けなくて家族が困る。
- ・ 困り事のデータを専門業者で分析できれば良いと思う。

【暮らしを支えるケアマネジメントの推進】（2班）

- ・ ケアマネジメントの質の高さはどこにあるのか？生活の質の向上を担保することが質の高さなのかを考えるとところから検討した。
- ・ いろんな人がケアマネジメントに関わる。商工会とか広い関係性が必要と思う。

【認知症しあわせプラン～認知症になってもしあわせ・まわりもしあわせ～】（3班）

- ・ 認知症の相談窓口の周知、地域を回って広報していた時代もあった。小学校に周知等多世代に広報する必要がある。手段としては、Line等の活用を検討する。
- ・ 周知の方法案としては、ゴミ収集車に啓発ステッカーを貼る。国道の電光掲示板に認知症窓口の案内を流す。薬局の待合室に、ポスター等で窓口を周知する。

【向こう三軒両隣で支える体制づくり】（1班）

- ・ 問題が多様化しており、解決に時間がかかる。
- ・ 地域と関係性が良い人であれば、支え合いがスムーズとなるため、まず関係性を作るためにサロンやミニデイの立ち上げが必要と思う。
- ・ 地域でどこまで支えられるのか。地域で支えられる範囲をはっきりする必要がある。行政が支える範囲を明確にする。一過性のものであれば、地域で支えられるが、反復性のものは困難と思う。
- ・ 発達障害の方等、孤立化の防止が必要と思われる。

【つながり支えあう地域づくりの推進】（2班）

- ・ 移動手段が難しい
- ・ 男性の方が集いの場に出てこない。運動等明確な目的があるものなら参加する傾向にある。
- ・ ケアプランのメニューが分かりにくいいため、「お宝マップ」を有効に活用しながらできればよい。

【人としての尊厳と権利を守る権利擁護の推進】（3班）

- ・ 中身が分かっていない人が多いため、成年後見の周知が必要。
- ・ 医療関係者にも周知する必要がある。
- ・ 虐待については、判断が難しいため、個人で判断ではなく組織で判断することにより、次の行動に進んでいくことが大切。→虐待につながるキーワードがあるため、それを関係機関に周知

【暮らしを支える医療・介護の仕組みづくり】（1班）

- ・医療と介護のスタッフ同士が話合える場が必要
- ・がん等ターミナルの方の検討ができているのか。医療と介護支援専門員との連携ができているのか。

【思わず参加したくなる介護予防の推進】（2班）

- ・要支援の方が非常に多い。病院にすることが多いため、病院から介護ショップを進められ、介護認定の申請を安易に進めてられてしまうことが多いと思う。
- ・介護予防でいきいき百歳体操を広めるため、音源を録音しラジオ体操みたいに外で楽しくすることも良いと思う。
- ・いきいき百歳体操の若年層版を作成。ゴムチューブ等負荷を大きくして実施。
- ・大阪の方で「元気でまっせもうかりませ」というキャッチフレーズがある。キャッチフレーズを作ることも必要と思う。

（3）地域ケア会議の体制デザイン図の変更について **資料3**

- ・**資料3**P10 参照。事務局としては、デザイン案3で実施したいと考えている。

（馬庭委員）デザイン案3の①～⑥は事務局会議がとりまとめて、地域包括ケアシステム推進会議で検討する解釈でよいか。

（事務局）案3の①～⑥の中で市民向けの研修会をしても良いと思う。

（馬庭委員）案3と案2と違う点で、上の会議を下の会議にした理由を教えて欲しい。

（事務局）一度に様々なことが挙げられるため、事務局会議で課題を焦点化することで、地域包括ケアシステム推進会議で検討しやすくするために分けている。

（馬庭委員）事務局会議と言っても、専門性が強い職員がいない体制では、検討することができないのではないかと。今までのデザイン図の方が、より専門職種で検討しやすいのではないかと。ワーキングが乱立しているのではないかと。脳耕会で検討していたものは、どの会議体で検討するのか。

（事務局）認知症施策のとりまめを事務局会議が吸い上げる。

（馬庭委員）ネットワーク委員会で資源開発をしないのであれば、事務局会議で精査することとなるため、地域包括ケアシステム推進会議でワーキングを立ち上げることで、より複雑化しているのではないかと。

（事務局）機能と役割を明確化するために、ワーキング部会を設置する意図がある。

（田中委員）脳耕会は、事務局から議題のオーダーが来て検討する方が検討しやすいと思う。案3が良い。

（小森委員）事務局が入ったデザイン図を前回の会議で提案していたが、今あるデザイン図に事務局が入ることをイメージしている。

（事務局）ワーキングが部会にぶら下がっていたため、部会にぶら下げるやり方では施策化に時間がかかってしまう。案2の様に、ワーキングの報告会しかできない部会となってしまう。ワーキングの進捗管理に時間を要し、部会で検討すべきことが検討できなかった。

（馬庭委員）4つワーキングがぶら下がっている方が、推進会議で承認を得なくても部会にぶら下がっ

ているワーキングの方が良い。事務局会議は賛成だが、(案) 2の方が良いと思う。

会議の回数が減った理由が分からない。事務局の都合が分からない。会議の回数が減ったことにより、医療との連携する機会が少なくなった。

(中山会長) 個々の会議体を越えたところで設置するワーキングは必要と思う。どの会議体であっても、すべての会議体でワーキングを設置する権限は持ったままで、地域包括ケアシステム推進会議でもワーキングを設置できる方が良いのではないか。

(馬庭委員) 地域包括ケアシステム推進会議の直轄のワーキング部会が4・5年前に実施したことがあった。

(柿沼委員) 在宅医療・介護連携会議のワーキングが、3、4つワーキングがあると報告がしんどい。在宅医療・介護連携会議の中で揉んでもらったから自信をもって提案することはできた。

専門的になると地域包括ケアシステム推進会議では不安に思う。

(馬庭委員) 委員会なのかどうなのか。事業として実施しているものあり、委員会ではないものも含まれている。虐待防止ネットワーク委員会の課題は何かあるか。

(小森委員) 委員会は3つに絞り込めると思う。ネットワークを作るためのネットワーク委員会は意味がないと思う。ネットワーク委員会は、社会資源を作るためのネットワーク委員会なら必要。

(事務局) ネットワーク委員会は2年任期でなく、テーマに応じた必要な人材をフレキシブルに招集し、資源開発をする方が継続して検討する方が良いと思っている。

(事務局) 人数が多いため、少人数で検討する方が資源開発をしやすいこともある。部会は13人、ワーキングは5、6人程度で実施している。

(委員) 会議の招集する手間が大きい。

(事務局) 多人数ですと、一言も発言せずに帰ってしまう委員もいる。委員の足並みが揃わない。

(濱田委員) ワーキングの報告が大半であり、ワーキングを細かくすると、市の方向性が見えてこない。ワーキングありきですと、ワーキングをしなければ社会資源の開発ができないのか。課題もいっぱいあり、どこの市町も多いが、ワーキングにこだわらないやりの方が良いと思う。

(事務局) 案2の‘作業部会をなくすことと解釈してよいか。

(濱田委員) 実際に資源開発ができているのか。実際は、なかなか進んでないのではないか。

(中山会長) 運営の仕方ですぐ上手くない部分もあると思う。ワーキングをデザイン図記載しなくても良いと思う。

(事務局) 委員にアンケートを実施し、12月にはデザイン図を確定させたいと思っている。

(中山会長) 各会議体でワーキングを立ち上げることはできると

(小森委員) 要綱の条文として、「必要な場合は専門部会を立ち上げることができる」と一文を加える。委員会で課題を出して、委員会で課題を解決していく仕組みに無理がある。事務局で必要性があれば、ワーキングを立ち上げる方が良いのではないか。

(事務局) 他の市町の情報も収集し、アンケートを実施した後にデザイン体制図は決めることとする。

4 閉会のあいさつ

須磨副会長あいさつ

時間が超過してしまいお疲れさまでした。これで会議を終了いたします。ありがとうございました。